

南伊勢 ドローンによる 空家対策プロジェクト

メンバー数：6名 活動場所：南伊勢町
実施主体：南伊勢町 環境生活課
担当教員：近藤 玲介（教育開発センター）
活動年度：H30

・データ取りまとめ
・役場と自治会向けプレゼン
・来年度活動計画企画(予定)
・南伊勢町道行竈地区における
空き家調査

・プロジェクト開始
・学内打ち合わせ

・プロジェクト立ち上げに向けた
打ち合わせ

2018

12 1 2 3

1. 今年度の活動を振り返って(成果と課題)

このプロジェクトは今年度の1月に新規に立ち上げられた、南伊勢町環境衛生課を実施主体とするプロジェクトです。南伊勢町は高齢化が三重県で一番進んでおり、これに伴い町内において空家が増え続けているため各種空家対策が進められています。この一環として、本プロジェクトではドローンを活用し、地区内の空家を上空から撮影するとともに学生とまちあるきによる空き家の全戸調査を実施し、それらの結果を南伊勢町や調査対象地区に還元することを目的としています。

実際の実施項目は以下の通りです。

- 1) ドローン撮影やまち歩きによる全戸調査によって、既存の空家データと比較し、空家数・周辺情報をデータ化する。
- 2) 1)で収集された空家の分布や個別危険度、集落の構造、災害避難経路との関係などを始めとした周辺情報に基づき、地区住民向けの空家マップなどを作成する。
- 3) ワークショップなどを通じた地区別の空き家に関する周知活動への参画を行う。

2月初旬に行われた第1回調査では、道行竈集落をモデル地区として、まち歩き調査とドローンによる空撮を行いました。まち歩き調査では地区内全ての家屋の空き家かどうかの判定や、学生目線での建物の倒壊危険性や、倒壊した場合に津波避難経路にどのような影響を与えるか、について記録しました。今後、大学内で調査結果を取りまとめ、今年度内に南伊勢町役場環境衛生課でのプレゼンや、道行竈地域住民向けのミニワークショップなどを行う予定です。今年度の活動は1月から始まったばかりなので、来年度からの本格的な活動に向けたプレ的・練習的活動として位置づけられ、随時成果を地域に発信できるようにしたいと思います。

2. 特にアピールしたいポイント

南伊勢町でのフィールドワークによって、まち歩きとドローンによる地域調査を実践的に体験できるだけでなく、地域の方々にそれらの結果を実際に活用してもらうことができます。まち歩き調査では、空き家問題だけではなく、集落ごとの景観・歴史・文化の生い立ちや個性、自然・防災についても地域の人などから学ぶことができます。またこのプロジェクトがうまくいった場合は、空き家を利用した「皇學館大学南伊勢ミニサテライトキャンパス」のような地域活動用の前線基地を作ることも夢ではないそうです。

3. 実施主体様からの声

南伊勢町の日常生活では気づきにくい空家情報などの課題を、空からの情報や学生の視点からわかりやすく地域に伝えることを期待しています。また、ドローンで収集された映像・画像資料は空家対策のみならず地域資源としての様々な活用も可能です。さらに、大学生の視点からの斬新な空家利用や再生アイデアも期待しています。



ドローン画像から作成した道行竈集落の立体写真地図



道行竈での調査風景1



道行竈での調査風景2



道行竈での調査風景3



道行竈地区会長へのヒアリング